

キャラクター名  
鹿紫雲 禅 (かしも ぜん)

プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン ウロボロス		ワークス	FHマーセナリーC	カヴァー	何でも屋
	オプション		年齢	34	性別	男
覚醒	死	衝動	妄想	初期侵食率	46	%
出自	待ち望まれた子	経験	トラウマ	邂逅	欲望：愛	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	2		0			2	行動値	8
感覚	2		0			2	(非装備時)	8
精神	3	1	0			4	戦闘移動	13
社会	1		0			1	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正									
白兵			射撃			RC	10		交渉		
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転：			芸術：			知識：	2		情報：	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲： 0    合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
生還者	P	N		
霧谷雄吾	P 執着	N 偏愛		
FH	P 有為	N 無関心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
螺旋の悪魔	5	3	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果： R中 攻+Lv*3 暴走								
マシラのごとく	4	6	Xジャー	-	単体	対決	80↑	
効果： 攻撃力+Lv*10 D-5								
虚：ハイブリーディング	1	8 基+3	オート	至近	自身	自動	120↑	
効果： I以外使用回数を1回復 侵食率分HP失う。								
背徳の理	3	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果： シーン中 D+Lv*2								
黒：ラストアクション	1	7 基+3	オート	至近	自身	自動	100↑	
効果： 戦闘不能時Xインテスを行う								
リミットリリース	1	6	オート	至近	自身	自動	100↑	
効果： C値-1 (下限値5)								
ライトスピード	1	5	マイナ	至近	自身	自動	100↑	
効果： Xジャー2回 C値+1								
サイレンの魔女	5	5	Xジャー	視界	シーン(選択)	対決	-	
効果： 攻撃力Lv*3 装甲無視								
背教者の王	1	4	Xジャー	-	-	対決	100↑	
効果： 攻撃力+ [侵食率/10] 端数切り捨て								
紫：妖精の手	3	5 基+4	オート	視界	単体	自動	-	
効果： 出目ひとつを10に変更								
巨人の影	1	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果： エフェクトひとつのLv+2								
極限暴走	1	基+3	常時	至近	自身	自動	-	
効果：								
闇夜の烏	★							
効果：								

通常ステージ

「ねえ雄吾。イヤになったら、いつでも逃げていいんだよ？」

◆UGN  
元UGNエージェント。現在はフリーのオーヴァードとしてFHと協力体制をとっている。  
現UGN日本支部支部長 霧谷雄吾に強く執着しており、FHながらも時折手紙を送り付けたり霧谷雄吾の自宅に訪問しているらしい。  
時たまにはあるが、何かしら理由をつけてUGNと敵対するFHのセルを破壊させたり、UGNでも霧谷のことを良く思っていない者たちの暗躍を阻止しているとかいないとか。要するに実害を与えたことがほぼないことと、ジャームではないことからUGNとの戦いを後回しにされている。

◆FH  
FHでは主に戦闘要員として活動している。  
報酬は霧谷雄吾の情報。だが、基本霧谷雄吾の知らない情報はないので一定の金銭と戦闘訓練を報酬としている。  
暴走し相手に突っ込む戦いや、自身が事切れる間に相手を殺す戦法はFHで身につけたものだ。  
気まぐれでFHのエージェントを攻撃したりするのであまり良く思われてはいない。

◆BCとのちがひ  
中学～高校のとき、霧谷雄吾が気になっている女の子がいた。  
無論、霧谷雄吾が自分以外に特別な感情を抱いていることが許せず、その女の子と付き合おうと接触する。  
しかし、あっけなくつられる。  
雄吾は普通にその女の子といい感じになり、青春を謳歌する。一週間に一度は様子を聞いたり悪い噂を流したりしたが効果は無く。  
嫉妬と憎悪と嫌がらせに満ちた青春を送った。

